自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

大学自己点検・評価委員会

(責任者名) 宇都口 直樹

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの修了要件に関わる科目は全て必修科目であり、全学生が履修している。本学で半期ごとに実施される大学自己点検・評価委員会への授業改善計画の提出により、本プログラムの履修・修得状況の把握が可能である。関連科目の修得率は高く、いずれの科目においても履修者の95%以上の学生が再履修することなく単位を取得している。具体的には、微分積分学では履修者の95%、情報科学実習では100%、基礎統計学では99%、医薬品情報学では99%、メディシナルケミストリー実習では100%、医療倫理学では96%、公衆衛生学では100%、臨床統計学では99%の学生が再履修することなく単位を取得している。</p>
学修成果	<p>各講義・実習終了後、講義・実習に関する評価アンケートを受講学生対象に実施している。これにより、学生自身の講義への取り組み姿勢や、講義の内容・進度・わかりやすさ等の評価を教員は把握できている。</p> <p>本学のディプロマ・ポリシー(令和6年度版)の達成度評価のためのルーブリックの観点の一つに「情報・科学技術を活かす力」が設定されており、関連科目の成績を反映させた直接評価と学生自身の達成度自己評価による間接評価を実施することにより、学修成果を把握・評価している。</p> <p>各科目の成績はAが29%～80%、Bが20%～36%、Cが0%～38%、Dが0%～14%の範囲で分布し、全体として良好な成績である。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学では、講義および実習終了後に受講学生を対象とした授業評価アンケートを実施している。アンケート結果を通じて、学生の講義や実習に対する理解度を把握している。これらのアンケート結果に基づき、各講義・実習の担当教員は授業改善計画を作成し、自己点検・評価委員会に提出することで自己点検・評価を行っている。</p> <p>特に、公衆衛生学および臨床統計学では、講義内で講義内容に関するアンケートや演習を随時実施し、理解度を確認している。</p> <p>今後は、4年次終了時に本プログラムに該当する科目を対象としてアンケートを集計し、IR運営委員会によるデータ分析を計画している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本学では、本プログラムの修了要件に関わる科目は全て必修であるため、先輩が後輩に履修済み科目を推奨する必要はない。一方で、本学にはピアサポート制度があり、先輩が後輩に対して様々な支援を行っている。また、部活動やサークル活動、ピアサポート制度を通じて、各講義の難易度などが後輩に伝達されていると考えられる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本学では、本プログラムの修了要件に関わる科目は全て必修であるため、該当しない。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>卒業生の就職先に対して、本学のディプロマポリシー・ルーブリックを用いた卒業生の学修成果の達成度に関する調査を実施している。卒業式までに概ね95%以上の卒業生の進路先に関する情報を把握している。活躍されている卒業生数名を呼び、活躍状況を在学生へ伝える「ようこそ先輩」の企画を実施している。</p> <p>卒業生が就職した20社程度の企業に対して、他社への異動が少ない就職後3年目の卒業生へのアンケートを実施している。アンケート内容は本学のディプロマポリシー・ルーブリックを用いた卒業生の学修成果の達成度調査である。今後は本プログラム修了者の活躍状況の把握も進める予定である。</p> <p>今後の計画として、産業界で求められる実践的スキルや倫理的判断力の育成をより一層重視し、本プログラム関連科目における教育内容の充実を図る。特に、創業シミュレーションや生成AIの活用など、実務との接点が多い分野については、医療業界を含む共同研究機関や提携企業の意見を参考にしながら教育手法の改善を検討する。また、インターンシップや産学連携の機会の拡充を通じて、学生が社会との接点を持ち、より実践的な学びを得られるような仕組みづくりにも取り組む。本学在籍の企業からの研究生の意見も反映する予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意味」を理解させること</p>	<p>情報科学実習では、生成AIを用いた課題により、プロンプト設計や出力の吟味を通じて思考と表現を行き来する力を養っている。微積分学では、数理的に考える姿勢を育む。基礎統計学では、社会課題の解決に統計がどう活用されているかを実例から学ぶ。医薬品倫理学では、データ不正やプライバシー問題を取り上げ、倫理的判断力の涵養を図る。公衆衛生学と臨床統計学では、医療統計や疫学が社会にどう貢献するかを伝える。メディシナルケミストリー実習では、構造可視化や創薬シミュレーションを通じてタンパク質変異の理解を深め、将来的にAI技術の導入も予定している。医薬品情報学では臨床データを活用し、科学的思考を体験的に学ばせている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>「学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度」で記載した通り、現在、授業評価アンケートの結果に基づき、自己点検・評価を行うことで、講義内容や水準の維持・改善に努めている。</p>